

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームにおける理念をもとに、認知症の利用者に対し家庭的な雰囲気における介護サービスの提供を行なっている	○	地域に溶け込む内容を盛り込んだ理念の見直し検討(定期的)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に確認ができる場所に理念の掲示を行い基本理念のもとに業務を実践している	○	ミーティングや朝の申し送りの際に、理念の実践に向けて、取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域との関係は、まだまだ不十分だが、運営推進会議の中で、活動状況や、理念などが理解されるように取り組んでいる。	○	運営推進会議や地域との行事等を通し、またホームページやオアシス便りの掲示、家族への配布を通して理念等、浸透させていきたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設内の散歩を拡張し、近隣のお店での買い物を行ないながら地域とのコミュニケーションを実施	○	近隣施設等の行事に積極的に参加し、コミュニケーションを図る
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	病院際、東新川合同敬老会、盆踊り等を実施し地域の方々を招いての行事のなかで交流に努めている	○	町内にあるコミュニティセンターを活用し、また町内で開催される行事等情報収集を行い、今後積極的、かつ気軽に参加できるように支援していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当法人における病院祭行事等において、高齢者への講演会を行い、また南風原町社協からの依頼に対する講師活動を行っている また地域の敬老会については、東新川自治会と合同にて実施	○	地域と家族、職員で勉強会などを通し、認知症、対応の仕方など、話し合いながら、勉強会に取り組んでいきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を通して見直し、再確認、改善に向けて話し合いを持っている。	○	改善すべき点、さらに今後、改善したい点などを見直し改善に向けて取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域関係者、利用者家族を含め、運営推進会議を開催しサービスの報告、意見等を参考に、サービスの向上に向けて話し合いを行っている。	○	現在、管理者だけが参加しているので、今後は、職員にも参加できるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南風原町の担当課と相談が行なえる環境があり、必要に応じて連絡が行なえる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人における年間教育スケジュールをもとに研修を実施している	○	研修や勉強会等に積極的に参加し職員全員が、共通理解し、活用できるよう、話し合い、研修報告会等を開催していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人教育における研修会への参加を行い、法令施行に関する情報提供を実施		施設独自における虐待防止についての勉強会を行ない、ケアの確認を行なう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者が、利用者や家族に、重要事項説明書と利用契約書をもとに、説明を行い、文書により同意を得ている。	○	利用者、家族の意向を聞き、十分な説明が出来るように努めていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話及び、家族へのアンケートの実施、または意見箱の設置等で情報収集を行い、スタッフミーティングの中で検討を実施		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の生活状況や健康状態等の報告をし、また、身体の変化、薬の確認、行事等、個々に合わせて報告をしている。	○	オアシス便りを配布し、活動内容などを把握してもらい、今後、行事、面会等の機会を増やしてもらうよう努めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱の設置を行い対応している。また、気軽に意見、苦情などが話せるよう面会時には、声掛けをしている。	○	家族からの意見等、ミーティングで話し合い、結果を家族に伝えることができるように努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて運営に関して職員の意見、提案を聞き必要に応じ計画伺いを行う。	○	今後も、運営者と連携を図りながら、職員の意見や提案を聞き入れるように努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯の勤務調整は行っているが状況に応じて、職員同士、勤務調節を行ったり、超勤などで対応してもらう場合もある。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継期間において、職員の異動の理由など、必要最小限に伝え、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	今後、職員全員が、研修に参加できるように支援していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	同業者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入の検討もしていきたい。法人職員、全体を対象とした企画も進んで参加していくよう努めたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	実際、現場に来る機会が少ないので、今後、足を運び、現場の様子を把握してもらえよう相談していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	利用者の事について、気づき等話し合い今後の対応について検討していくよう努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	初期の相談は、家族にとってとても不安が強いため、安心して相談できる環境にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の状態により必要とされるサービスを見極め情報提供や助言等を行っております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境変化で混乱してしまわないように、利用者が緊張せず自然と馴染んでもらえる雰囲気作りをしている。	○	家族も面会の機会を増やしてもらい、家族にも職員とホームに馴染んでもらえるように支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	培ってきた人生経験豊富な利用者より学ぶ事はとても多く、季節のならわしや地域での習慣等、大変勉強になる事が多い。また、生活の場面においては、困った時に自然に助け合う等、関係が構築されている。	○	利用者の 情報収集をし、生活暦やアセスメントを見直し過去の経験を生かしたケアに努めたい。 業務を行いながらだが、少しでも多くの利用者に、ふれあい関係をきづいていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者がより良い暮らしの実現に向けて、家族とは常に話し合い、共に考え支え合っている。少しでも身体の変化が見られた場合や、医療的処置が必要な場合等は、家族と協力し合っている	○	利用者のホームでの生活を面会時やオアシス便り、電話連絡などで状況を把握してもらい常に協力してもらえるよう、今後も取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族が良い関係を築いていけるように、年間行事等を通し参加してもらい、利用者と家族の関係を支援している。	○	利用者と家族の関係、調整に努め時には、仲介者、代弁者としサポートし、利用者の笑顔が、見られるよう支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接的に職員からの働きかけは少ないが、家族側から、親しみのある友人や知人との関係が維持できるよう面会や外出の機会を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日課活動や日々の生活を通して、他者との交流が図れるよう働きかけており、また困っている人や介助が必要な人の手助けが自然にできる等、支え合っている。	○	今後も孤立する利用者の方が出ないように、利用者同士の関係を把握していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の時点で、他の病院へ長期入院になっているケースが多く、連絡が断ち切ってしまっている。	○	契約が終了した場合、次に利用できるサービス等を紹介し、今後も連絡が取れる体制にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ、利用者の希望や意向の把握に努めているが、業務の流れで進めて行くこともある。	○	今後、残存機能を維持していけるように声掛けし、本人本位を中心に利用者のペースに合わせて支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活のリズムの把握、観察、記録を通して確認し、入居後も日々の生活場面において聞き出している。	○	今後も利用者一人ひとりの生活暦、環境等を十分理解し、把握したうえでサービスに努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの生活のペースを尊重し、心身の状態の把握に努めるよう観察、記録には、怠らない。本人のペースで日々の生活が、送れるように、常に、支援している。	○	利用者一人ひとりの健康状態、心身の状態、有する力を十分把握し、今後も能力維持が支援できるように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が、利用者や家族が求めている事をニーズに即したケアのあり方などを見直し、一部の職員にアセスメントをもとにカンファレンスし、介護計画を作成している。	○	勤務時間内で行っているため、担当者と一部の職員しか共有できない部分もあるため、今後、ミーティングで話し合う機会を持ち、職員全員が共有できるように努めたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了時、本人の状態の変化が生じた場合は、見直しをしている。	○	随時の見直しは不十分に思われる。今後、状態の変化が生じた場合等、迅速に対応し、介護計画作成時には、家族の意向、利用者中心のとした、計画を作成するように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、経過表に日々の観察や、記録を記載しており、情報の共有、ケアの実践、介護計画の見直しを行っている。	○	今後も、利用者の変化などに気づき、常に、情報を共有できるように努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態に応じ、その都度、検討し支援している。	○	事業所の協力を得ながらサービスの活用を支援できるように体制を整えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会長からの提案による還元施設の活用検討や、南風原社協との連携のなか利用者との活用を検討している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域との交流する場が少なく、活用できてないのが、現状である。	○	今後、地域で利用できるサービスやケアマネジャーとの連携を図りながら、必要とされるサービスが、活用できるように支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、地域包括センター関係者と交流があるが、権利擁護等については、把握していない部分もある。	○	地域包括センター関係者に、権利擁護等についての勉強会等を通し交流を深め、協力体制を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院への定期受診を行っている。利用者が、通い慣れている皮膚科等の専門病院への受診また、異常発生時には、家族と相談し他科受診してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携病院において、認知症の相談助言を受けることが可能	○	今後、定期的に行われる認知症の勉強会に積極的に参加していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整えており24時間、利用者の健康管理や状態に応じて医療の活用ができるような看護支援体制を整えている。	○	急変時の対応など再度確認しスムーズに対応できるように努めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	転院先での相談員と情報提供書をもとに、連絡を取り合い、早期退院ができるように、受け入れ体制は、常に整えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師、看護師、介護士と終末期の対応について話し合い、家族とも相談している	○	現在、関係者、職員の方針や意向のバラつきがあるため今後、話し合いを持ち終末期に向けた方針を共有して行くよう努めたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携における指針をもとに対応し、施設としての取り組みを確認している。	○	終末期に向けた取り組みについて話し合い、今後に備えて対応マニュアルの整備を進める。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者と情報交換をし移り変わる際のダメージが防げるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の確保、情報の取り扱いには、十分気をつけている。個々に応じた介助や対応を心がけている。	○	今後も、その人らしく暮らして行けるように、職員同士、情報交換し声掛けや対応に気をつけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望や思いを聞き入れることができるように、常に心がけている。自分で選んでもらったり、自己決定に繋がるように支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体のペースとなる事もあるが、一人ひとりのペースを大切にできるだけ、希望にそって支援している。	○	一人ひとりの残存機能を維持しながら日々どのように暮したら楽しく過ごせるか、希望を取り入れていけるように支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時は、利用者の好みの服、化粧等をし、髪形は、家族と美容室へ行き利用者の望む髪型にしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から食材切り、食事、片付けと利用者と職員が一緒になって行うようになってから、残り物が少なくなり、楽しく食事を取ることができている。		10月よりコープを利用している。注文カタログを利用者と見ながらメニューを決めているため、好きな物を選ぶ楽しみも増えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好の好みに合わせるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表もとに排泄パターンを把握し、声掛けや誘導、必要であれば、介助をし、排泄への自立に向けて支援している。	○	今後も排泄チェック表をもとに、個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	業務の流れで、決められた曜日、午前中に入浴をおこなっているが、希望があるときは、その都度、対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないときには、話をしたり共に過ごしたりと安心感が持てるよう支援している。また、入眠前に本人との談話の時間を設け、不安の軽減を図っている	○	体調に合わせて日中は、日課活動に参加してもらい、夜は、安心して眠れるように、今後も支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課活動や余暇活動を通し、役割や楽しみを与えられるよう支援している。	○	役割や楽しみごとが、次のやる気や自信へと繋げられるよう、励ましたり場面作りを今後も支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力に応じてお金の所持をしてもらっている。持つことによって安心感に繋がることもあるので、家族と相談し所持している。買い物の日には、好きな物を購入できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者からの希望は少なく、職員からの声掛けによって、買い物や散歩を行っている。	○	家族の協力のもと、今後も外出支援に努めたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	2月に1回、野外レク活動を取り入れ、家族への参加の呼びかけ、ボランティアの呼びかけを行い、普段行けない場所に外出している。	○	利用者が、リフレッシュし楽しみにしていけるように、今後も外出支援に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には、電話をかけ、年賀ハガキ等を送ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人が、訪問に来た際には、居室や居心地良く過ごせるよ場所を工夫し、声掛けをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法指定基準に沿っての把握はまだ不十分だが、身体拘束のないケアに常に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、常に玄関を開錠しており、自由な空間になっている。ホームが2階にある為、階段横には、センサーを使用し一人で下りるのは危険なため、音が鳴った場合は、利用者に声を掛け介助する。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の安全が常に確認できるように、利用者の横で記録をおこなったり、必ず職員誰かが、そばに居れる状態にしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所や管理に関しては、職員同士注意深く行っており個々に応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の研修に参加し、そこで得た内容においてスタッフ間で検討実施する	○	今後も、事故がないように、転倒への注意、誤薬がないように、職員同士チェック、危険が常にならないように事故防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防を交えた救急法の実施訓練への参加。	○	急変時に対応ができるよう意識し、職員同士、常に急変時の対応について、話し合っていくたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練については、消防への通報を含めた訓練と、自主訓練のを毎年2回行っている。	○	災害がおきた場合、地域への協力願いなど、運営者に確認し、協力願いの働きかけに努めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	予想されるリスクにおいては、家族等に説明し、話し合い、同意をもらうよう努めている。	○	今後もリスクについて家族と話し合いを持ち、抑圧感の無い暮らしを大切に支援していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異常の変化にすぐに気づき、日々の状態観察には、怠らない。また、その状態を記録に残している。体調、異常の変化がある場合は、迅速に対応できるように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書により効能・副作用等を把握し、正しく服用できるように常に注意しながら投薬を行っている。薬の変更時などは、記録し、申し送りをしている。服用後は、症状の変化等、観察を行っている。		今後も、服薬する場合には、職員同士、名前、日付の確認、本人確認をしてから服薬してもらう。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜を毎日取り入れたり工夫している。水分補給を多めに促しスムーズな排便が、できるように働きかけている。	○	今後も、栄養バランス、水分補給、適度な運動等を取り入れても便秘をおこす場合は、医師と相談し薬の調整をしてもらうように支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、歯磨き、義歯洗浄を各自で行っている。自力でできない方は、介助、一部介助で行っている。義歯洗浄は、毎週1回行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェック表にて、食事摂取量を把握している。栄養の過多や減少がみられた場合は、状態に応じて代替えの食べ物、飲み物で対応している。また、10時、15時には、必ず、水分補給を行っている。	○	栄養士にカロリーの確認、栄養のバランス等、相談し支援してもらう。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づいて実施している。外からの感染を防ぐように、入り口に家族への協力願いを掲示している		家族の協力のもと、インフルエンザの予防接種を行う
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や食器洗いスポンジ等の消毒(ハイター)は、毎日行っている。食器、布巾、包丁等も常に衛生管理に配慮している。台所周りについては、除菌アルコールの散布を行い、室内の清掃についてはハイターを活用し食中毒予防に心がけている。食材は、新鮮な野菜、生ものには、十分気をつけている。	○	今後も常に新鮮なものを使用するように、食材の取り置き、買い過ぎに気をつけて、安全管理に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	病院の敷地内の3階にホームがある為、階段、エレベータの使用になり、不便な面も感じられる。玄関前には小さい庭園がある。	○	玄関前の庭園の環境整備を行い、そこでくつろげる雰囲気にしていけるよう努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、食堂等は、毎日利用者と一緒に環境整備として掃除を行っている。他の空間は、利用者の反応を見ながら落ち着いた雰囲気づくりを心がけている。	○	今後、生活感や季節感を取り入れて、居心地の良い環境づくりに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、みんなでテレビを見たりして過ごし、昼間やソファでは、自分の時間が、ゆっくり過ごせる場として居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みに合わせて、手作りの手工芸等を飾ったり、写真を置いたりしているが、個性を生かせる部屋作りについては、利用者の希望確認に試行錯誤している。	○	現在、入居中の利用者の方は、今の環境に慣れてしまっているため、部屋の模様替えをすることに抵抗がある。今後、入居する方の家族には、使い慣れた物を持ってきてもらうように、契約時に話し取り入れていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常時、居室、ホーム全体の窓の開閉し換気を行っている。居室は、利用者の体調、気温などに気をつけて冷暖房の調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体は、バリアフリーで廊下等は、手すりを設置している。空間も広く安全かつ自立した生活が、送れるように支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の持ち物には必ず、名前を記入している。洗濯物は、自分でたたみ片付けしてもらっているので、トラブルが軽減されている。自立した安心できる暮らしの継続が、できるように支援している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の庭園やベランダに草花を植え、水撒きを行い成長を楽しみにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム オアシス)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事は、生活において唯一の楽しみの一つでもある為、利用者の方が、満足のいく食生活を送っていただけるよう試行錯誤を繰り返しながら、要望に添えるよう日々取り組んでいる。その為に私たちホームでは、「食事作りはみんなで～」をモットーに食材切りから調理、時には、味付けまで利用者と一緒に協力しながら行っています。